

轉法輪

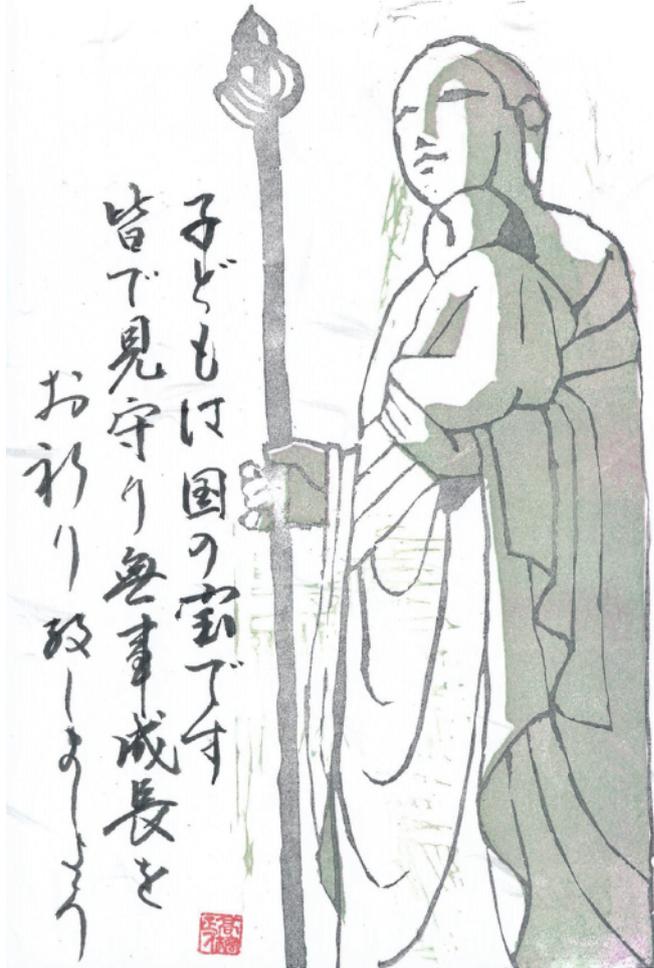
はつぷ
りけん
八不の利剣は
けん
た
戯論を断つ

弘法大師

平成三十年七月一日発行
発行所 犬飼山轉法輪寺
〒六三七一〇〇七二
奈良県五條市犬飼町一二四
電話〇七四七二二一四四〇三
FAX〇七四七一五一四七一七
編集発行人 桑山聖淳
印刷所 森本印刷工業所
和・伊都郡かつらぎ町妙寺

子安地藏尊大法会

七月二十四日(火) 午前八時より



子どもは国を宝です
皆で見守り無事成長と
お祈り致しませう

子安地藏尊

アジサイが雨に濡れ、光が美しい季節となりました。

七月二十四日(火)は、子安地藏尊大法会を執行致します。優しく子どもたちを見守り、お浄土へと水見たちを導く、子安地藏さまをおまつりする大祭です。

暑さ厳しい頃ですが、皆さまお誘い合わせのうえご参拝くださいませ。

地藏尊法要

地藏堂にて 午前八時

永代供養水子幼没霊の御回向

大教室にて 午前九時半

水児幼没霊供養

先祖諸霊供養

安産子授・子育て祈願

千灯供養境内にて 午前十一時

昼食接待

ゼンジー南京

マジックショー

地元のごともたちのダンスステージ

一生懸命練習しています！

見に来てくださいね！

犬飼山轉法輪寺

お大師さまのお言葉 八不の利剣とは、仏教の真理のこと。あれこれと要らぬことを思い悩んでいるよりも、手を合わせてご真言をお唱えすることが、安心への近道であったりします。

お世話人
旅行記



轉法輪寺住職 桑山慈紹

去る五月二十九日、お世話人様と住職、後住、一行三十五名の団体は、吉野郡大淀町の曹洞宗世尊寺・宇陀市大宇陀の大願寺・真言宗室生寺派大本山室生寺に参拝し、信仰と相互の親睦を

深めた。

世尊寺の本山ご住職の、幅広く丁寧なお話は、仏像・仏具、歴史に及び興味が尽きない。弘法大師が入唐求法されるまでの時期に、この世尊寺においても勉強・修法に励まれたようである。昼食は大願寺へ。宇陀の薬草を使った「精進薬草料理」のフルコースを堪能した。

午後は女人高野の大本山室生寺へ参拝。新緑のシャクナゲの参道、石段を上がり、まず金堂に案内された。堂内に一同座し、読経させて頂く。国宝の釈迦如来像をはじめとする仏の世界に暖かな光明が満ちて、これまでにない様な不思議な感動を味わっていた。全身が仏の光に包まれるようだった。本堂（灌頂堂）にも内拝が許され、ご本尊はじめ見事な八祖大師像等、圧巻であった。

私事だが、昭和四十七年大学三年生

の夏休みに、四国第二十一番太龍寺において虚空蔵求聞持法を修行させて頂いた。その折に住職の島村泰雅僧正は、「修行中遙か東、奈良室生寺の如意宝珠を遥拝せよ」と仰った。

その後、不信心にも本日初めて室生寺金堂に内拝し、この暖かき光にお出会いすることができた。はるか四国から遥拝した若僧の心を、ご本尊様は心に留めて頂いていたのかと観じ、涙が出る思いがしたのである。室生寺は、長く女人高野と言われている。しかし私は、母なる御仏のいます室生寺と観じた。

正御影供御礼

去る五月六日、当山弘法大師正御影供奉修のみぎり、御心こもる御膳料を過分に拝受し誠にありがとうございます

毎月21日は月並御影供(9時半～)・28日は不動尊護摩供(9時～)です。どなたでもお気軽にご参拝くださいませ。入退出自由、昼食お接待です。

輪 法 轉 (3)

した。当日は天候にも恵まれ次第通り執行できました。寺院方・ご詠歌衆・稚児・御世話人の助力があり、満堂の参拝による法要は荘厳かつ、盛大に行われました。バザー・もちまきも大変な賑わいでした。

午後からの吉野病院院長、福岡篤彦先生の御講演は、広い範囲に及ぶ研究成果を分かりやすく説かれ、受講者一同感動しながら拝聴致しました。更に実践では、先生がまるでエビス・大黒様のようになつての三十分、素晴らしい時間を経験させて頂きました。教室全体が一体となつて笑い、手を打ちました。

この法要に沢山の方々のお力・ご支援を頂きました。私は多勢の素晴らしい方々、いわば宝の中に座らせて頂いていると思います。心より感謝申し上げます。ありがとうございます。

合掌

生かせいのち

【第五十八話】

名誉住職 桑山聖規



七月二十四日は当山の子安地藏尊の大祭日です。昭和三十九年七月二十四日に建立開眼供養しました。年月の経つのは早いもので、もう五十五年目になります。

浄財を集め地藏尊像を建立したのは、当時の婦人たちの苦しみがあつたからです。敗戦後、我が家へ兵隊さんが戻り、次々妊娠する子どもの数を調整するため、妊娠中絶が当たり前になっていました。未婚の青年女子は出産不可、若い夫婦も中絶として、産婦人科は手術希望者であふれていました。その弊害が婦人の体調に表れました。足腰の痛み、肩こりやふらつき、子どもの夜泣きや夜尿症等、薬だけでは中々治りにくい為に、当山に救いを求めて参拝する人が多くありました。泣き悲しむ水児霊の菩提の為に、母親の健康回復の為に、子安地藏尊を建立し開眼供養せねばと深く感じ、郡山の大理石材店に依頼しました。大石社長さんは石像彫刻の始めには毎日三礼して謹製しましたと報告してくれました。そうして、幼児を抱きかかえる姿の子安地藏尊像が完成しました。参拝される方は日増しに増えて毎日

水子の個人供養を受け付けています。毎日9時、11時、14時、16時からお勤めを致します。

大勢の信者が水児供養を修し、また永代供養をされ現在までに二千四体となつています。毎日新しい菓子を供え、生花を善くして読経供養させて頂いています。親に捨てられたと言つて泣く子は無くなり、子安地藏尊に救われた喜びに満ち、他を守り利益する菩薩となり輝いています。親は子を捨てた罪が消えて身心健全に、幸福な明るい家庭になります。信仰心の無い人は、自分の造つた罪を背負い、いつの日か泣かねばなりません。救われた信者の皆様は、無信心で無反省の人を啓蒙して水児霊を供養するよう助言してあげて下さい。人を善導することは大きな功德積となります。

私たちは食欲・腹立ち、愚痴の煩惱により六道に迷い輪廻しています。六道は地獄・餓鬼・畜生・修羅・人・天の六つです。自分の行いにより、死後はこのどこかに生まれ変わり、永年救われないのです。地藏尊は六道の能化

(先生)と言われ、迷いの中でぐるぐる廻っている衆生を漏らさず救おうと、六道に立ち入って昼夜御守護下さっています。墓地の六地藏尊も、死者を一人残さず助けんと誓つて入口に立つておられるのです。お参りの時は心より感謝して拝みましょう。地藏尊の御力は真に偉大です。ご参拝を心よりお待ち申し上げます。

心に宝をー25ー

幸せは「気づくこと」

橋本市

宝形山 地藏寺

井上 覚 善

今でも時折思い出すことがある、昔のほろ苦い思い出があります。私が生まれ育つた実家のお寺は、祖母が戦後に病に臥せっている折、不動明王のお

ゼンジー南京
マジックショー
七月二十四日 午後一時より



告げにより無一文から立ち上げたお寺で、私が小学生時分は築き上げている創成期であり、当時、行事ごとに大勢の信者さん方で境内が溢れんばかりに賑わい、多くの方々のご寄進により、大きな本堂の建設が進んでいる最中でした。そんな時でしたから、家には経済的な余裕など、到底ありませんでした。

ある時、学校の遠足があり、当然弁

当を持参しなくてはいけなかったのですが、周りの同級生たちは卵焼きや、たこさんウインナーなど、色とりどりの美味しそうなお弁当を広げていました。しかし、うちには沢山いる子どものお弁当にそんな贅沢なものを食べるはずもなく、恐る恐る弁当のフタを開けると、入っていたのはカチカチになった仏飯を下げたご飯と、数日前の法要の時に信者さん方にお出しした、煮しめの残り物でした。私はそんな質素なお弁当を持ってきている自分を恥ずかしく思い、また生まれた境遇を恨んだりもしてしまいました。そして折角母親が持たせてくれたお弁当を腕で隠すようにして食べてしまいました…。

今は、自分も親となり、子どもにしてあげられることはその時の状態により、十分なことが出来る時も、またそうでない時もあります。親の心情としましてはその時その時に出来る精一

杯の愛情を注いでいると思います。ですから私が子どもの頃、つい「恥ずかしい」と思っていたお弁当でも、本当はその時に出来る精一杯の母の気持ちがかもっていたはずなのです。しかし、その時は悲しい事に、自分がその愛情に気づくことが出来なかったのです。

時は流れ、私は勿体ないご縁を頂き、矢倉脇やくらわきのお寺で皆様のお陰で有難い環境の中で、不自由ない生活をさせて頂いています。その有難さをつい忘れてしまいそうな時には、子ども時分の頃の忘れてはいけなほろ苦い思い出を想い、反省と感謝の念を新たにしながらと思っております。

そして今、思うことは、あの時の苦い経験があればこそ、何でも、どんな物でも好き嫌いなく有難く食べることが出来ますし、たとえシャモジや炊飯ジャーの裏布タなどにこびりついたカチカチのお米でも、ゆっくり噛みしめ

ると、当時の親の精一杯の愛情が溢れてくるような気がしてきて、つくづく「私は世界一の幸せ者やな」と思うこの頃であります。

サイパン慰霊の

旅に参加して

西吉野町

光明院

岩井恵照

サイパン島は淡路島や琵琶湖とほぼ同じ大きさの、サンゴ礁の美しい島です。日本からサイパンへの直行便は無く、グアムで乗り継ぎをしなければなりません。グアムはアメリカ領なので入国審査が厳しく、私もよほど不審に見えたのか、首から掛けていた名札や万歩計、パスポートを入れるポーチなど全て外すように指示されドキドキ

ました。

サイパン島は皆さまもご存知の通り、第二次世界大戦でアメリカ軍と日本軍の激戦地になったところです。私は、なぜ日本はアメリカのような大国と戦争を始めたのだろうか？と常々疑問に思い、身の程知らずな戦いを心よく思いませんでした。この旅では、教科書で習わなかった歴史を教えて頂き、長年の疑問が解けたように思います。

開戦前の御前会議ごぜんかいぎの中で、幹部の方々は冷静に両国の物資や戦力を比較して「戦っても、戦わなくても日本は負ける。戦わずして負けた国は二度と立ち上がれない。だから負けるのを承知で、日本の未来・子孫のために戦う。」と苦渋の決断をされたそうです。兵隊さんたちが初めてサイパンに上陸した時は、バナナやココナッツが実る、常夏の穏やかな島だったそうですが、やがてアメリカ力の軍艦が、海が黒

く見えるほど現れて上陸し、空港を占領して戦場と化してしまいます。この空港は、日本軍が手作業で土を運び何か月もかけてコツコツと作り上げたものです。アメリカ軍は重機を使って、瞬く間に長い滑走路のある広い空港に作り変えていきました。日本軍はその様子を見渡せるタポチヨ山から舌を巻いて見ていたそうです。(後に、このサイパン空港からB29が日本に向けて飛び立ち、日本は空襲や原爆の投下を受けて敗戦を迎える訳です)

日本軍は力の限り応戦しますが、戦力や物資に格段の差があり、タポチヨ山もたちまちに占領され沢山の日本兵が戦死されました。逃げ延びた日本兵は地獄谷で集まり自決したそうです。負けるのが分かっているながら、なお祖国の未来・子孫の為に戦って命を捧げた日本兵や、戦争に巻き込まれて亡く

なった一般島民を思うと心が痛みます。

サイパンの島民は守ってくれる兵隊さんがいなくなってしまったので、北へ北へ逃げ、島の最北端の岸壁から紺碧べきの海へ身を投じて沢山の方が亡くなりました。「アメリカ兵に捕まったら捕虜はづかしにされ、辱めを受けるから自決した方がましだ」と洗脳されていたからです。「バンザイ」と叫んで飛び込もうと海を見ると、人が一杯浮かんでいて場所を変えた、という話も聞きました。バンザイクリフという地名はここからきているそうです。

亡くなった方々の悲惨な最期を思うと胸が一杯になります。何年か前に天皇皇后両陛下が慰霊においでになり、バンザイクリフで深々と黙とうを捧げられた姿をご記憶の方も多いと思います。私たちも、その場所で沢山の御霊が救われますように、と心から念じま

輪 法 轉 (7)

した。

戦後日本はめざましい復興を遂げ、終戦から七十年以上経った今、平和で戦争の跡かたなど全く感じられませんが。サイパンには、まだ生々しい傷跡が至る所に見られます。岩肌に残る銃弾の跡、残置された戦車、最後の司令部となった洞窟の壁を貫く砲弾の跡。現在の平和な日常がどんなにありがたいかを噛みしめました。

戦地を訪れ、お水やお花をお供えして当時の方々の苦勞をしのび、サイパンで亡くなられた全ての方々に心からの祈りを捧げることが出来ました。この方々の働きのお陰で私たちの今があるのだ、と感謝の気持ち湧きあがってきました。この平和な日常を守り、今という時間を精一杯大切に生きてゆかねばならないと、心に刻みこむ体験でした。

寄稿文

母の出番

坂田笑津子

新婚の娘が鎖骨を折って入院した。幸い一週間足らずで退院できたが、食事作りだけでも手伝ってやろうと私は意気込んだ。娘夫婦は車で二十分ほどの所に住んでいる。

一日目。前の日から献立を考えて、ムコ殿の口に合うようにと、心を込めて作り届けた。「わざわざすみません」。ムコ殿のお礼の言葉に、私は意気揚々と帰ってきた。二日目も、勤めから帰って手早く三品こしらえ、娘の家に走った。疲れなど少しも無かった。

ところが、「明日からはもうええで。お母さんも働いて疲れてるんやから。ご飯だけ炊いておいたら太郎さんが作ってくれる」。娘の言葉に、私は言えない寂しさを覚えた。

「そうか。それならそうする。優しい旦那さんでよかったなあ」。共働きのため、家事を手伝ってくれるとは聞いていた。しかし、娘の一大事に母の出番があると思っていた。娘の幸せを見届けたはずなのに、このむなしさは何だろう……。

帰宅すると、夫は私の顔を見るなり「ビール」。そんなことぐらい自分でできるだろうに。娘に対する複雑な思いと、古い男の夫に腹が立って、食卓を整えると私も缶ビールを開けた。「あれ、禁酒したんと違うんか。もう挫折したんかいな」。一か月後の検診に備え、私は禁酒をしていた。けど今夜だけ飲む。「女は黙って缶ビールやー」。母親の出番がないのは平和な証拠。これでええねん。ふわりとした酔いの中、私は自分に言いつて聞かせた。



お世話人さま募集！ 檀家さんに限らず、信心を持って行事のお手伝いしてもらえる方であれば大歓迎！ お大師さまの教えの輪を広げましょう。

あした天気になあれ

その式

小松裕衣

私の住む稲美町は字のごとく、稲の美しい田畑が広がる田舎です。この季節になると一面黄金色の麦の穂がゆれています。水の張った水面には青空が映り、私の一年で一番好きな景色です。

我が家の長男、嵩典が昨年小学校二年生だったころ、生活科の授業で「自分の生い立ちを調べる」という学習がありました。生れた日のことや、一才から七才になるまでの親子の思い出を、写真を添えて記録に残すというものです。その中に「自分の名前の由来を聞こう」という宿題が出ました。「ねえお母さん。どうして嵩典にしたの?」「それはね…嵩という漢字は、高く尊い、みんなの宝物という意味を込めてつけたんですよ。」

典という字は、祖父の代からずっと受け継がれている一文字で、我が家の男性にはみんな「典」が付いています。男の子三人いるので、「典のりブラザーズ」と呼ばれています。

名前は親が子どもに、最初に与える贈り物だとよく言われます。先日の神戸新聞に、家庭での望ましいしつけについて、次のように書かれていました。

① 子どもに名前を付けた時、どんな人になって欲しいと考えましたか。それがしつけの長期的な目標です。

② 子どもが安心して物事に取り組めるように、必要な情報を流しましょう。(子どもが納得できるよう分かりやすく伝えるなど)

③ 子どもが今どんな気持ちか、何が必要かと寄り添いましょう。

名前がその子の目標…!名づけた時、確かにそんな人になって欲しいという願望は持っていました。いざ毎日子育てをしていると、なかなか悠長に対応できていないのが現状です。振

り返してみると、私自身も自分の名前に見合った大人に成長できているのか…課題はまだまだ山積みです。

今では、「〇〇君のお母さん」とか、「〇〇さんの奥さん」などと、自分の名前と呼ばれることも少なくなりました。結婚して苗字が変わってしまったので、自分は何者かと疑問が湧いてくることもあります。しかし立場は変われども、私は私。生を受け、授かったこの名前と共に、今を大切に生きようと思う母の日でした。

町石道でお接待

水坂友梨子

五月二十七日(日)町石道を歩いて高野山に登るイベントがあり、途中の「矢立茶屋」横にてお接待をさせて頂きました。

輪 法 轉 (9)

準備を整えると間もなく先頭集団が通過。疲れを見せぬ健脚ぞろいに驚かされました。

「お接待」が分からず少し離れた所より見ておられた方に意味を説明すると笑顔で受け取って頂けてたいへん嬉しかったです。

用意したクッキーや消しゴムハンコで作られた絵ハガキは、あつという間に無くなり、

晴天の中、テーブル前には列ができました。急いでお茶やお水をお渡しすると「冷たくて美味しかった。」「生き返ったよ。ありがとう。」等の言葉に「あと少しです。頑張ってくださいね。」と後ろ姿を見送りました。

「無量の罪障、道中滅」という言葉を教えて頂きました。高野山を目指して一歩一歩歩いている間に心身の汚れが少しずつ取り除かれるという意味だそうです。

皆さんの道中安全をお祈りしながら無事にお接待を終え、とても充実した

時を過ごさせて頂きました。有難うございました。

夏越のはらい

不動護摩

キユウリ加持



七月二十八日(土)

朝九時より

お大師さまが唐より持ち帰った秘法、きゅうり加持。

災厄や病気をきゅうりに振り替え、夏の暑さを無事に乗り越えるための御祈願です。

本年のきゅうり加持法会は、七月の不動護摩供と併せて行います。どうぞ皆さまお参りください。

当日受付は十時までとさせていただきます。

子安地藏尊のお願い

水児供養を希望される方は、同封した供養申込書にてお申込み下さい。当日でも受付ます。

(供養料：一霊五百円です。)

△ご奉仕のお願い△

暑い時ですが、世話人様はじめ信者の皆様のご協力をお願いします。

- ① 七月二十三日(月)、掃除、のぼり立て、ちようちんつり、飾りつけなどの諸準備。
- ② 当日七月二十四日(火)早朝より、そでなし白衣・うで念珠、または、ゆかたでお手伝い下さい。
- ③ 七月二十五日(水)、あとかた付け。
- ④ 七月三十日(月) よだれかけ付け参り

シャトルバスのご案内

橋本駅〜轉法輪寺間の小型バスを運行します。どうぞご利用下さい。

バス時刻	シャトルバス
7:30	橋本駅発
8:30	
9:30	
10:30	
11:30	
13:30	轉法輪寺発
14:30	
15:30	

秋の四国八十八ヶ所巡拝 71番 弥谷寺～88番 大窪寺
高野山お礼まいり 同行者募集中！



内吉野支所下寺院の皆様による、
理趣三昧法会を厳修致しました。



子どもたちの献灯献花。
お大師さまにお供えします。



吉野病院院長、福岡篤彦先生の
講演に大盛り上がり！



お餅まきも大盛況！
童心にかえるひと時です。

弘法大師 正御影供盛大

去る五月六日

「哀れなるかな、哀れなるかな長眠の子」
お大師さまは悩み苦しみの絶えない私たちを、
仏の安楽な目覚めの世界へ誘うために御入定さ
れました。その慈悲心に報い、誓願を伝えるた
めの行事を本年も盛大に行うことが出来ました。
お力添え頂いた檀信徒の皆様にも、厚く御礼申し
上げます。

当日行われたバザーの収益金、70,660円は熊本・東北震災支援金として高野山
足湯隊に寄附させていただきました。ご協力ありがとうございました。